

モニターレポート（11月報告）

【報告内容①】

・灰塚水衝部対策（ベーン工法）の看板を初めてじっくりと読んでみました。読みながら、川を見てみると、確かにここは、大きく川が曲がっているのだと強く実感できました。地上からは見えないけれど、たくさんの矢板が川の中に並んで埋め込まれているということが分かりました。気のせいかも知れませんが、穏やかで平らな松浜の阿賀野川と違って、ここは川の流れに3本の大きな長い筋が見えるような気がしました。

普段、車を停めずに通過する場所ですが、看板をよく読むと、知らないことだらけで、とても勉強になりました。水防用資材や土（側帯というのでしょうか？）があるのも、いざという時のために必要な物で、気にとめることもなく過ごしていますが、本当に大変有り難いことなのだと感じました。

河床、洗掘、水衝部、二次流、局所洗掘、深掘れ、ベーンなど、初めて知る言葉ばかりで、正しく読めているかも怪しいですが、大変大変勉強になりました。知らないことだらけだということに改めて気付き、このような勉強の機会をもらえて本当によかったと思いました。もっともっとたくさんの人に、川の中がどうなっていて、なぜこのような工事をするのか等、知って貰いたい、知って貰うべきだ、知った方がいいと思いました。

・小杉低水護岸その3工事、小杉低水護岸その4工事の現場へ行きました。作業の人たちがいなかったのも、安全掲示板、看板などを初めてそばまで行き、読んでみました。こういう機会は普段あまりないので、一人で行くのはドキドキでした。

安全掲示板には、たくさんの内容が掲示されていて、工事目的もたくさん書いてあり驚きました。専門用語が多く全てを理解できませんでしたが、洪水時の住民の安全、洗掘されない丈夫な低水護岸、河道の浸食対策、堤防を強くする等とあり、とても大事な改修工事だと分かりました。

安全掲示板や看板には、私たちを守るための重要なことが書いてあるのに、知らなさすぎたかと反省しています。

【事務所からのコメント】

日頃より河川愛護モニター活動にご協力頂きありがとうございます。
今月に入り白鳥の姿を見られるようになり、本格的な冬の到来を感じる時期となりました。

さて、報告を頂きました胡桃山出張所管内の護岸工事ですが、今年度は、小杉低水護岸（2工区）並びに蔵岡堤防浸透対策工事を行っています。工事は、洪水時の安全対策の一環として取り組んでいるもので洗掘防止・河道侵食対策等を目的とし、また新潟市東区蔵岡地内では、堤防浸透対策改修工事を行っています。何れの工事においても河川管理上必要な工事であり、年度計画に基づき行っています。

これから12月に入りさらに寒さが増してきます。モニター活動につきましては、十分注意されますようお願いいたします。

お気づきの点がありましたらご連絡下さい。引き続きよろしくお願いいたします。

モニターレポート（11月報告）

【報告内容②】

11月1日(水)の午前8時過ぎから阿賀野川床固め公園、阿賀野川フラワーラインを拠点に担当区域をじっくりと観察しました。満願寺閘門付近の川の水も澱むことなく流れていました。

今回の観察では、雨の日も多かったので、阿賀野川全体の水量も多く床固め付近も床固めに川水が強く当たっていました。

阿賀野川床固め公園の駐車場には車が1台もなく、散歩している人もいませんでした。せっかくの公園がもったいないです。ペットボトル、空き缶のポイ捨ては阿賀野川床固め公園、阿賀野川フラワーライン内、土手にはなかったです。河川敷一帯や川辺付近にも不法投棄のゴミ類は一切なかったです。川岸の木にビニールのひも状のものが付いていました。川が増水した時に流れ着いたものでしょうか。以前程ではありませんが、公園内、土手、川岸付近も草の伸びが目立っていました。

阿賀野川河川事務所のホームページで「遊ぼう！学ぼう！阿賀野川」「洪水の歴史」を拝見しました。阿賀野川水系の洪水の原因の大部分は、梅雨前線と台風であることを知りました。今年は大事に至らなかったことを喜んでいきます。

私たちの命の阿賀野川が凶器になることも知りました。

【事務所からのコメント】

日頃より河川愛護モニター活動にご協力頂きありがとうございます。

当月中旬以降の月間平均気温は、低めに推移していましたが下旬には山間部を中心に降雪もあり例年に比べ早めの降雪に見舞われました。市内でも初雪を観測しました。

阿賀野川周辺では、右岸側堤外地内の水田(湛水圃場を中心)を中心に白鳥の姿がみられる季節となりました。冬間近を感じさせる今日この頃です。

毎月モニター報告を頂いていますゴミの不法投棄ですが、一向に減っていないのが実情です。明らかに家庭から出されたゴミと思われる液晶テレビの不法投棄(回収済み)が報告されています。今後とも継続した監視に努めて参りたいと存じます。

お気づきの点がありましたらご連絡下さい。引き続きよろしく願いいたします。

モニターレポート (11月報告)

【報告内容③】

・秋も深まりめっきり日脚も短くなり、朝晩も冷気が身にしむ頃となりました。特に今年は冬の訪れが早く既に何度か雪模様の天気となり、晩秋というより初冬の感で、私の担当する河川区域もすっかり枯れ色の風景となりました。

・今月も馬下の阿賀野川頭首工から小松を経て、六野瀬で国道49号線を左折し、川岸の堤防道路に出て渡場床固・安田橋・都辺田川公園・千唐仁・阿賀浦橋、そして籠尻川公園迄のコースを巡視しました。9月にご指摘のありましたNo.157付近を確認したところ「河川管理区域境界標」を発見しましたので、今後の報告はNo.157付近迄とさせていただきます。

・先月報告最後に、阿賀野川きょうがせ防災ステーション前の堤外地側の大規模な工事のその後を今回よく確認したところ、ブロック等をブルーシートで横一列に並べてあり、「河床の洗堀防止(ブロック)工事」(平成30年3月14日迄)「羽越線阿賀野川橋梁ブロック製作据付工事」だと判明しました。

これは、先回報告で最後に御指導頂いた「羽越線鉄橋が管内で洪水時最も危険な箇所」ということでの対応工事だと即座に判断致しました。確かに「羽越線鉄橋」は、堤防より低く、近くには土嚢も少しは積んで用意されているものの、同鉄橋と堤防が交差する場所には鉄橋下を潜る道路もあり、堤防としては非常に機能的には脆弱な部分だと判断できますので、一日も早くこの部分の堤防敷き周辺を橋桁以上のコンクリートブロックで周囲に擁壁を廻らすなどして、洪水時の住民の不安を一掃していただきたく満願寺出張所の皆様のさらなるご尽力をお願いいたします。

・最後に、一般的な質問をお願いしますが、「阿賀野川の本流と支流はどのような基準で定めるのでしょうか？」阿賀野川の源流が、何故、福島・栃木両県にまたがる荒海山となるのか。何故、只見川の源流の檜枝岐川の尾瀬沼や北ノ又川の源流が阿賀野川の源流にならないのか。つまり、河口から遠い川か？もしくは、河川水量の多い川が「本流」と定義されるのか？

併せて、河川の水量は、全国で一位が信濃川、二位が阿賀野川、三位が最上川ですが、この河川の水量はどの様な方法で測り、どの様に計測したものなのでしょうか。

長年の疑問にお答え頂きたく、よろしくお願いたします。

【事務所からのコメント】

河川愛護モニター活動報告を頂き、ありがとうございます。

今年の11月は例年に比べ雨が多く、河川の水位も高い状況が続いております。気象庁の向こう3か月(12月～2月)の天候の見通しでは気温、降雪量とも平年並みの予報になっております。

予報が外れて大雪にならないで欲しいものです。

今回は、阿賀野川頭首工右岸から渡場床固を経て籠尻川公園まで、巡視していただきありがとうございました。

・羽越線鉄橋右岸側の堤防が低くなっている箇所ですが、計画堤防高にするには、羽越線鉄橋を高く架け替えるしかありません。しかしながら、莫大な費用がかかるなど様々な理由で実現は難しいものとなっています。このため、洪水時のリスクを下げるため、ご報告であった、河道掘削や水防活動軽減のための土のうの配備、土のう設置区間縮小のための橋梁際までの擁壁の設置などを行ってきております。今後の対策工(案)としては、堤防部分の橋桁を現在の桁が下部についている上路桁橋から、桁が下部にない下路桁橋への架け替えを行うことにより、桁部分のスペースを利用して堤防高を現在より高くする案を事務所で見検討しているところです。

・本流、源流についてのご質問ですが、当所では事業概要などで紹介されている幹川流路が本流でその上流を源流として紹介しています。幹川流路は、上流域の会津地方では、人口資産が集中する会津盆地を流れる阿賀川の一部を直轄河川管理(国が直接管理)としており、只見川でなく阿賀川を幹川流路としています。従って、パンフレットで紹介している源流は阿賀川(幹川流路)の源流である荒海山を源流として紹介しております。一般的に源流と言うことであれば、おおきな支流である只見川上流の尾瀬や日橋川上流の猪苗代湖も源流といえると思います。

・河川の水量の計測方法について質問がありましたので以下簡単ではありますが説明させていただきます。

河川の流量は、川の断面積と流速を掛け合わせて求められます。

①流速の測定

流速は洪水時と平常時で観測方法が違います。洪水時は、浮子という浮きを橋の上などから投下し、水位観測所の近傍であらかじめ設置してある見通し杭間(2断面に設置)の距離を浮子が流れる時間で割って求めます。

平常時は船や人により直接川の中に流速計というプロペラ式等の機械を入れて測定します。

②断面積の測定

流速測定時の見通し杭のある断面を測量します。測定は、水深の浅いところは直接計測し、深いところは船などに乗って音響測深機(音波が地面に反射して戻る時間を水深に換算)などで計測します。

以上、代表的な測定方法を簡単に説明させていただきましたが、流速の測定と川の断面の測定は、人手によって行われるため手間がかかり、一年を通じて連続的に行うのは困難です。従って、流量と同時に水位を観測し、水位と流量の関係式(H-Q式といいます)を決めておきます。あとは、水位観測所で自動観測によって得られた水位を流量に換算する方式がとられております。水位と流量の関係式は時とともに変化するので、時々観測による修正が必要となります。

お気づきの点がありましたらご連絡下さい。引き続きよろしくお願いいたします。

※複数のモニター報告を要約してあります。

モニターレポート（11月報告）

【報告内容④】

11月23日10時頃から
阿賀浦橋から下条大橋まで確認をしてきました。
小雨 気温6度

大きな不法投棄物などは発見できず。
異常ありませんでした。
カントリーエレベーター付近の田んぼに白鳥の群れが餌を食べていて、
新潟の冬らしさを感じた事。
金屋球場脇の土手に土が盛られ何の工事が気になる所がありました。

【事務所からのコメント】

日頃より河川愛護モニター活動にご協力頂きありがとうございます。

今回は阿賀浦橋～下条大橋を巡視いただきいただきありがとうございました。
大きな不法投棄もなく異常も無かったということでした。また、途中堤防上から見える堤内地側田んぼで、餌を食べている白鳥の群れが見えたというご報告でした。白鳥と言えば去年は、関川村、上越市の養鶏場で立て続けに鳥インフルエンザが発生し、阿賀野市の瓢湖で回収されたコハクチョウからも鳥インフルエンザの感染が確認されたことが思い出されます。この冬は、その様なことが起きなければ良いと思います。その他、金屋球場（阿賀野川左岸距離標22.2k付近）下流の土手に土が盛られる工事が何の工事が気になったとのご報告がありました。そこは、新潟市所有の土地で元々市の方で盛り土がなされていた箇所です。ただ平らに盛り土されておらず、不規則な盛り土形状となっていました。また、雑草も繁茂している状態となっていたところです。そこで、当所で来年度以降の工事で使用するブロックの製作ヤードとして利用するために、河川改修工事で発生した土砂で平らに盛土及び整正を行っているものです。なお、製作ヤードとして使用した後の利用方法については市の方では未定と聞いております。

お気づきの点がありましたらご連絡下さい。引き続きよろしく願いいたします。